膵臓がん

1．診断

（1）精密検査（確定診断）　※詳細は担当医にお聞きください。

腹部超音波（エコー）検査、CT（マルチスライスCT／MDCT）検査、MRI検査（磁気共鳴胆管膵管撮影／MRCP）*、超音波内視鏡検査／EUS、内視鏡的逆行性胆管膵管造影／ERCP、膵管内超音波検査／IDUS、経皮経肝胆道造影／PTCなどの画像検査と腫瘍マーカー検査を組み合わせて行います。

各診療所と徳洲会病院では困難ですが、八重山病院で可能です。また、本島のがん診療連携拠点病院（➔P41）でも可能です。

（2）病期判定

治療の方針を決めるために、病期（ステージ／ stage＝病気の広がり、がんの進行の程度）を決定することが必要です。

各診療所と徳洲会病院では困難ですが、八重山病院で可能です。

***MRI検査**
巨大な磁石の中に入って、体のさまざまな部分を撮影する検査です。ベッドに寝て穴の中に入り、FMラジオなどで用いられている電波を体に当てて、体の中の様子を画像化します。体の縦、横、斜め、輪切りなどの画像が得られます。放射線を使いませんので、被曝はありません。

2．治療　※詳細は担当医にお聞きください。

（1）手術

もし手術が可能な病期であれば、多くの場合、まずは手術をします。

各診療所と徳洲会病院では困難ですが、八重山病院で可能です。

（2）放射線療法（がんに治療用の放射線を当てて、がん細胞を破壊して、がんを消滅させたり小さくする治療）

病期や病状によっては、放射線治療が必要になることがあります。化学療法と併用されることが多く、その場合は化学放射線療法と呼ばれます。

八重山医療圏（竹富町、与那国町、石垣市）では困難なので、本島の放射線療法が可能な病院で治療を受けることになります（➔P45）。

（3）化学療法（抗がん剤、分子標的治療薬など）

手術が成功しても、手術後に化学療法が必要なことがあります（術後補助化学療法）。また病期によっては、最初から化学療法を行う場合があります。

各診療所では困難ですが、八重山病院または徳洲会病院で可能です。

（4）黄疸に対する処置

黄疸がある場合、内視鏡を用いて胆管にステント（プラスチック製あるいは金属製の管）を挿入する方法（内視鏡的胆道ドレナージ／EBD）や皮膚から肝臓を介して胆管にステントを留置する方法（経皮経肝胆道ドレナージ／PTBD）を用いて、胆汁を体外へ出す処置をすることがあります。

これらは各診療所では困難ですが、八重山病院または徳洲会病院で可能です。

